



ALL竹原連携企画 — 若者がまちを変える！

～ まちが 大学生・高専生の 学びと成長の場に ～

内容

若者や女性が“私らしく輝けるまち”を目指す「ALL竹原きらっと未来創造会議」の取組の一環として、IT分野を中心に地方の若い人材を発掘・育成するAKATSUKIプロジェクトの「re-KOSEN」との連携企画を実施しました。（令和7年11月7日）

このre-KOSENに採択された中四国地方の高等専門学校の学生（高専生）19名が竹原市に集まり、「ALL竹原きらっと未来創造会議」会員等の協力のもと、農業分野と観光分野に分かれてフィールドワークを行いました。

参加した高専生は、自分たちが進めるプロジェクトに何か反映できないか、説明に聞き入っていました。

今回の連携企画を契機として、今後も「ALL竹原」体制で若者のチャレンジや成長を応援する取組を行うことで、“私らしく輝けるまち”の実現に向けて推進していきます。

【農業分野】



参加した学生へのインタビュー



”若者も次の時代を担っていく意識を”

【チーム名】AgriEase（アグリイーズ）
呉工業高等専門学校
江島 朋来 さん ※竹原市内在住

Q.今日の感想

地元はこの竹原市ですが、このフィールドワークを通して、改めて自分が今まで知らなかった地域の課題や魅力などを感じることができ、とてもいい日になったと思います。

Q.まちの課題に若者が関わってチャレンジすることについて

若者ならではの意見というのが多いと思うし、若者も次の時代を担っていく側として、そういう意識を持つことが大事だと思います。そういう意味でも、若い人たちが率先してまちづくりに参加できる環境はあった方がよいと思います。

Q.まちのフィールド提供について

自治体がこういう取組をやってくれることになると、個人とか複数人でやるよりも規模の大きなことができると思うので、それを今回体感させていただいた経験からすると、とてもいいことだと考えます。

” まちがフィールドを提供してくれることは、とてもやりやすい環境”

【チーム名】URI (ウリ)
阿南工業高等専門学校
関口 心菜 さん

Q.今日の感想

市の方と連携し、地域住民に寄り添った方にお話を聞くという機会はなかなか無かったので、こういう機会を通して、色んな意見を取り入れることができ、プロジェクトの発展に繋がるなと思って、いい経験ができました。

Q.まちの課題に若者が関わってチャレンジすることについて

私たちは若い世代って言われていますが、例えば若い世代だったらSNSは強いと思うので、SNSの拡散力も活かして、竹原市の魅力について伝えられたらと思います。

Q.まちのフィールド提供について

市の方と一緒にやることは、なかなか無い機会なので、いい経験になりました。市の方がフィールドを提供してくれるのは、私たちにとってもやりやすい環境ですし、自分から動くことも大切だと思いますが、市の方が連携してくださることで、周りの方との繋がりもできます。また、自分のプロジェクトをもっと発展させようという気合いにも繋がります。

” 色々なことを知り、色々な観点から見るができるフィールドワーク”

【チーム名】GORO
広島商船高等専門学校
中嶋 蒼志 さん

Q.今日の感想は？

竹原に来るのは初めてではなくて、授業で白水～竹原～広島市内というルートはよく使うので、通過点としてはよく知ってはいんですけど、町並み保存地区はあまり興味がなかったというが実際知らなくて、今回初めて観光して興味を持ったのですごく驚きました。実際にこういう活動をされているんだということも知ることができたので、良かったです。

Q.まちの課題に若者が関わってチャレンジすることについて

正直、チャレンジャーだなと思っています。どちらかというと、まちは学生というよりは大人たちが変えていくというイメージがあって、学生に声をかけてもらって、実際こういう問題があるんだよっていうのをやってくれると、その問題解決のためにどうすればいいのかっていうプロジェクト全体が広がると思っているので、これからもやっていってください。

Q.まちのフィールド提供について

すごいうれしいです。自分は昨年、海事サイバーセキュリティセミナーに参加させていただいたのですが、かなり活動的で、それまで実際あまりそういう場を知らなくて、その時は声かけられてイベントに参加しましたが、色々なことを知り、色々な観点から見ることができるので、非常にいいなと思います。

【観光分野】



” 若者の斬新なアイデアが社会の役に立つ”

【チーム名】はたチャ
大島商船高等専門学校
縄田 嵐 さん

Q.今日の感想

私たちのプロジェクトがどれだけユーザー（農家さん）にマッチしているのかを確かめられ、実際にニーズに合っていたということが分かり、とても自信につながって有意義だったと思っています。

Q.まちの課題に若者が関わってチャレンジすることについて

僕たちみたいな若者は世間を知らないんですよ。そう考えると、常識的な考えや現実的な考えっていうのは知らないの、ある意味、斬新なアイデア、突飛なアイデア、ぶっくらばうなアイデアが出ると思うんですよ。でも、そういう誰も思いつかないアイデアが、もしかしたら社会の役に立つかもしれない、っていうことをたまに考えます。そういう点では、とても有意義なことだと思います。

Q.まちのフィールド提供について

私自身のプロジェクトでは、実際に周防大島でフィールドワークを実施することもあるんですが、そういった時は、自分から市の方や農家の方にアポイントを取っていますが、いろいろ大変なんです。市の方からこういった場を提供して頂けると、安心してフィールドワークが出来るので、とても助かります。

ご協力いただいた視察先

■農業分野

- ・(福)宗越福祉会：農福連携事業として、八天堂と連携して吉名町でブドウ園を運営。スマート機器の導入で効率化を高めている。
- ・(株)笑福蓮根：仁賀町で地域特性（寒暖差のある厳しい環境、きれいな水）を活かして、れんこんを栽培。お手伝いをしながら旅をする”おてつたび”の受入れも行う。

■観光分野

- ・(一社)竹原観光まちづくり機構(竹原DMO)：竹原の観光振興とまちづくりを目的に、令和5年12月に市・商工会議所・観光協会が設立した官民連携の組織。飲食店のベジタリアン・ヴィーガンメニューの開発支援なども行う。
- ご協力、ありがとうございました。

ALL竹原きらっと未来創造会議 事務局

竹原市企画部企画政策課 (竹原市中央五丁目6番28号 TEL: 0846-22-0942)

竹原商工会議所 (竹原市中央三丁目7番1号 TEL: 0846-22-2424)

ALL竹原きらっと未来創造会議
の情報はこちらから

